

スペシャルサポートルーム（SSR）ですすめる 不登校対応の実践

～校内・校外ネットワークを構築して～

田中 敬子
(広島県教育委員会スクールソーシャルワーカー)

1 研究の背景と目的

不登校児童生徒数の推移

(人)

300,000

250,000

200,000

150,000

100,000

50,000

0

H14

H19

H24

H29

R4

計
299,048

中学校

小学校
105,112



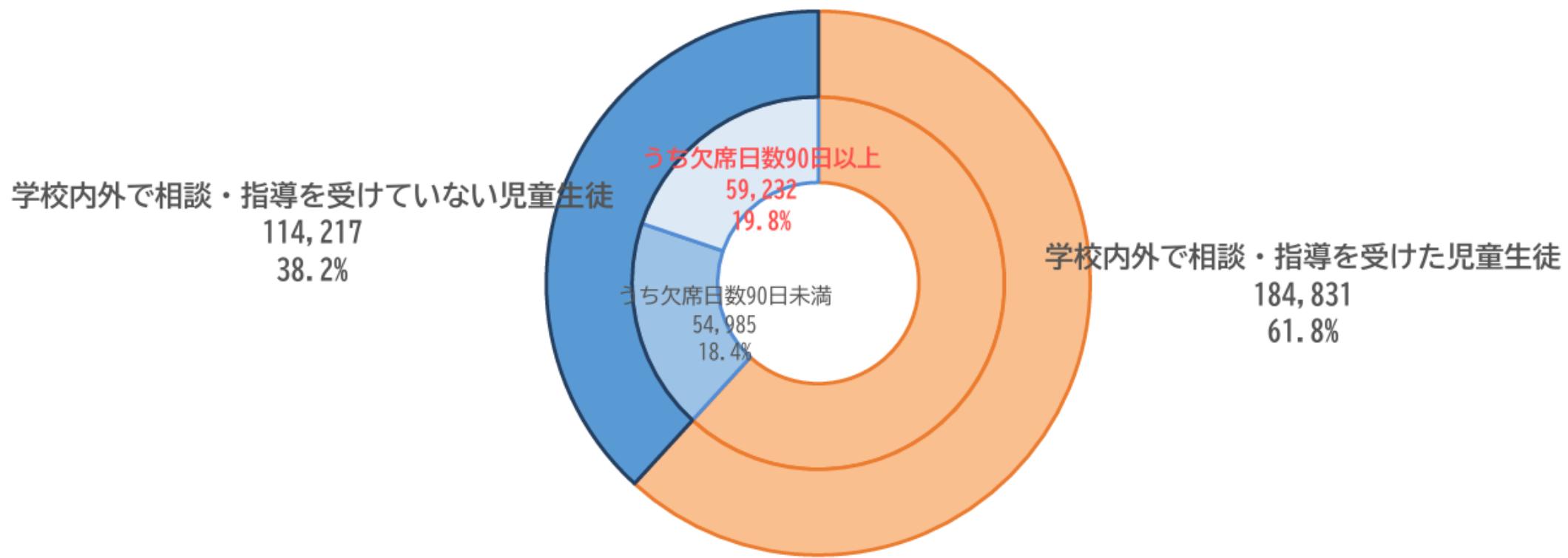
文部科学省「令和4年度
児童生徒の問題行動・不
登校等生徒指導上の諸課
題に関する調査」

1 研究の背景と目的

文部科学省「令和4年度
児童生徒の問題行動・不
登校等生徒指導上の諸課
題に関する調査」

■ 学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない不登校児童生徒(※)のうち、90日以上の者

(人)



1 研究の背景と目的

目指す姿

1

不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、 学びたいと思った時に学べる環境を整えます。

- ✓ 一人一人のニーズに応じた多様な学びの場 * が確保されている
 - * 不登校特例校、校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）、教育支援センター等、子ども家庭庁と連携し多様な学びの場、居場所を確保
- ✓ 学校に来られなくてもオンライン等で授業や支援につながることができる
- ✓ 学校に戻りたいと思った時にクラスを変えたり、転校したりするなど本人や保護者の希望に沿った丁寧な対応がされている



2

心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。

- ✓ 1人1台端末で小さな声が可視化され、心の不安や生活リズムの乱れに教師が確実に気付くことができる
 - ✓ 小さなSOSに「チーム学校」で素早く支援することにより、早期に最適な支援につなげられている
 - ✓ 教育と福祉等が連携し、子供や保護者が必要な時に支援が行われる*
- * 子ども家庭庁と連携し自治体の教育部局と福祉部局等の連携・協働を強化



3

学校の風土の「見える化」を通して、 学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

- ✓ それぞれの良さや持ち味を生かした主体的な学びがあり、みんなが活躍できる機会や出番がある
- ✓ トラブルが起きても学校はしっかり対応してくれる安心感がある
- ✓ 公平で納得できる決まりやルールがみんなに守られている
- ✓ 障害や国籍言語等の違いに関わらず、色々な個性や意見を認め合う雰囲気がある



これらの取組を実効性あるものにするために、

- ✓ エビデンスに基づきケースに応じた対応を可能にするための調査の実施、
- ✓ 学校における働き方改革の推進、
- ✓ 文部科学大臣を本部長とする
「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」の設置を行います。

— P11

実効性を高める取組



1 研究の背景と目的

1

不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。

01

不登校特例校の設置を促進

令和5年2月現在 不登校特例校： 21校
設置していないが設置を検討している市町村： 379

早期に全ての都道府県・政令指定都市に、将来的には希望する児童生徒が居住地によらず通えるよう、分教室型も含め全国300校を目指します。このため、設置事例や支援内容等について全国に示すとともに、都道府県が域内の設置状況を踏まえ積極的な役割を果たすことを明確にします。

人事交流等を通して、NPOやフリースクール等との連携を強化とともに、他の学校の児童生徒へのオンラインを活用した相談支援、他の学校への助言やノウハウの普及を行います。

「不登校特例校」の名称について、関係者に意見を募り、より子供たちの目線に立った相応しいものとします。



02

校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）の設置を促進

令和5年2月現在 全ての学校に設置している市町村： 228
設置している学校がある市町村： 1015

自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活できる環境を学校内に設置します。

自分のクラスとつなぎ、オンライン指導やテスト等も受けられ、その結果が成績に反映されるようにします。

03

教育支援センターの機能を強化

令和5年2月現在 単独で設置している市町村： 1147
他の自治体と共同設置している市町村： 126
設置していないが設置を検討している市町村： 134

不登校の児童生徒への支援に加え、その保護者が必要とする情報を提供とともに、子供たちが様々な学びの場や居場所につながることができるよう、地域の拠点としての教育支援センターに求められる機能や役割を明確化します。

民間のノウハウを取り入れた不登校の児童生徒への支援が行えるよう、業務委託や人事交流等を通して、NPOやフリースクール等との連携を強化します。

より広域の子供たちや保護者につながれるよう、オンラインによる支援機能を強化とともに、在籍校とつなぎ、オンライン指導やテスト等も受けられ、その結果が成績に反映されるようにします。

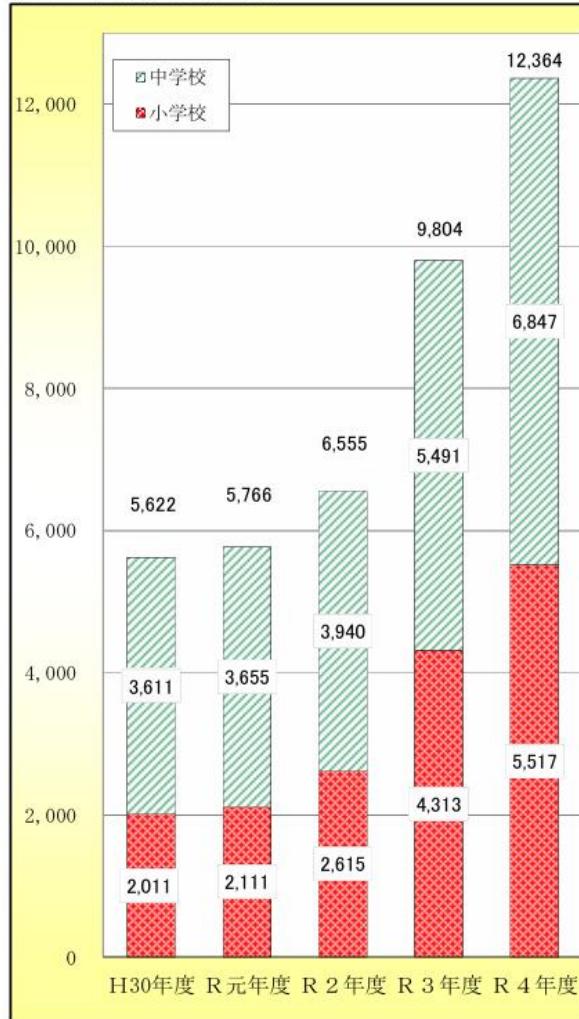
併せて、不登校の児童生徒への支援におけるメタバースの活用について、実践事例を踏まえた研究を行います。



1 研究の背景と目的

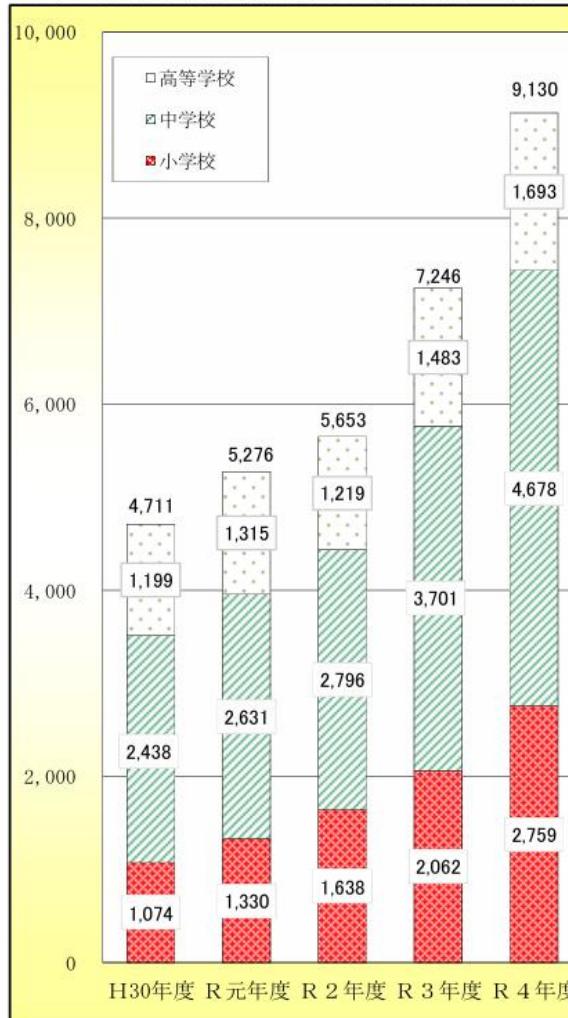
3 長期欠席児童生徒数（人）

国公私立小学校、中学校の合計



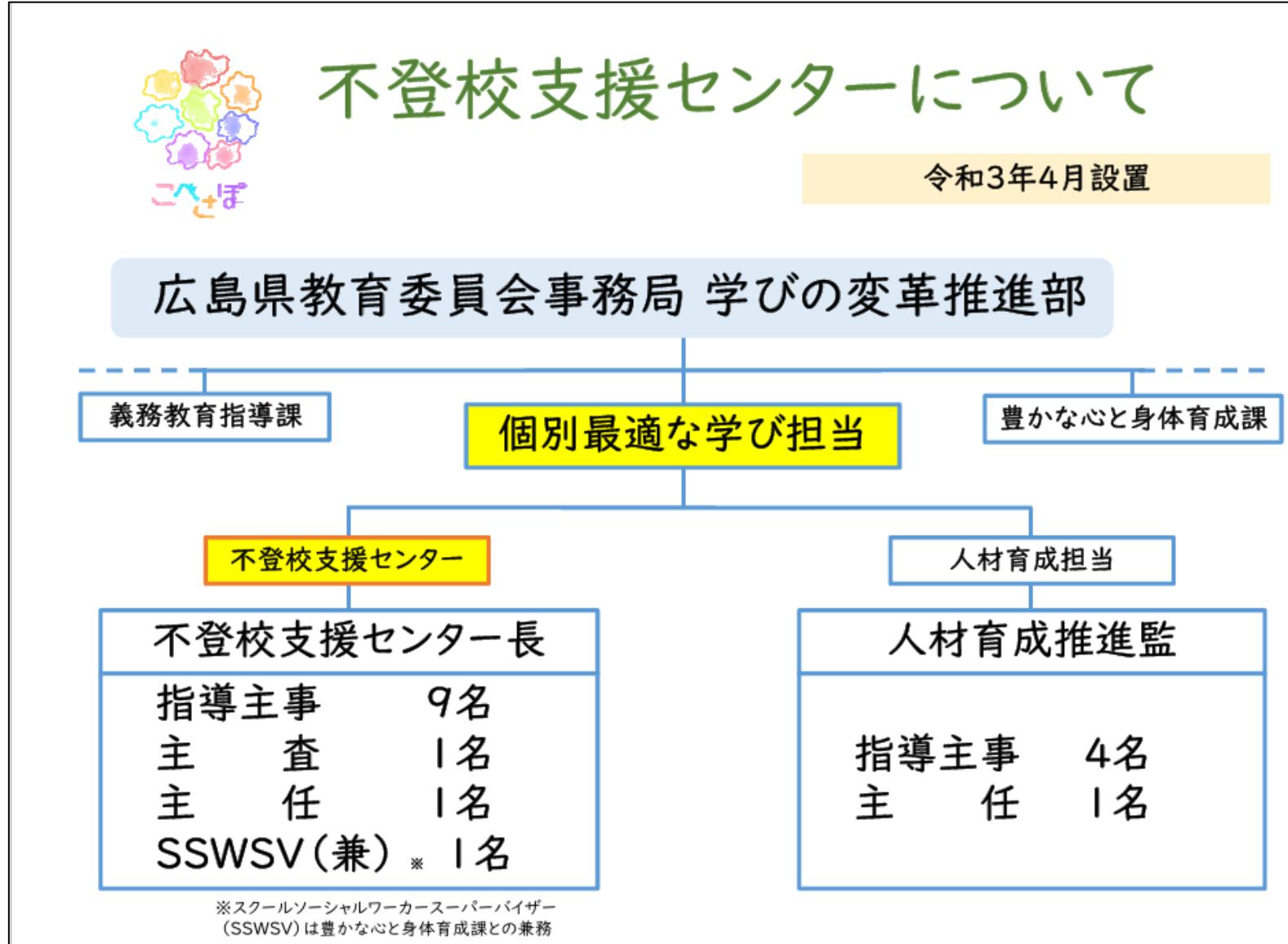
4 不登校児童生徒数（人）

国公私立小学校、中学校、高等学校（全日制・定時制）の合計



広島県教育委員会「令和4年度の広島県における生徒指導上の諸課題の現状について

1 研究の背景と目的



不登校等児童生徒への学習支援等による不登校の未然防止及び 不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実

SC・SSWの参画

1 研究の背景と目的

SSR(スペシャルサポートルーム)は、どんな場所なのか。

◎通常の教室への復帰を前提とはしていない。

◎居場所であるとともに成長できる場である。

◎「生きる力」を育むことを目指す。

- ・ 相談する力
- ・ 自分の強みを知り、生かす力・苦手な場面でSOSを出せる力

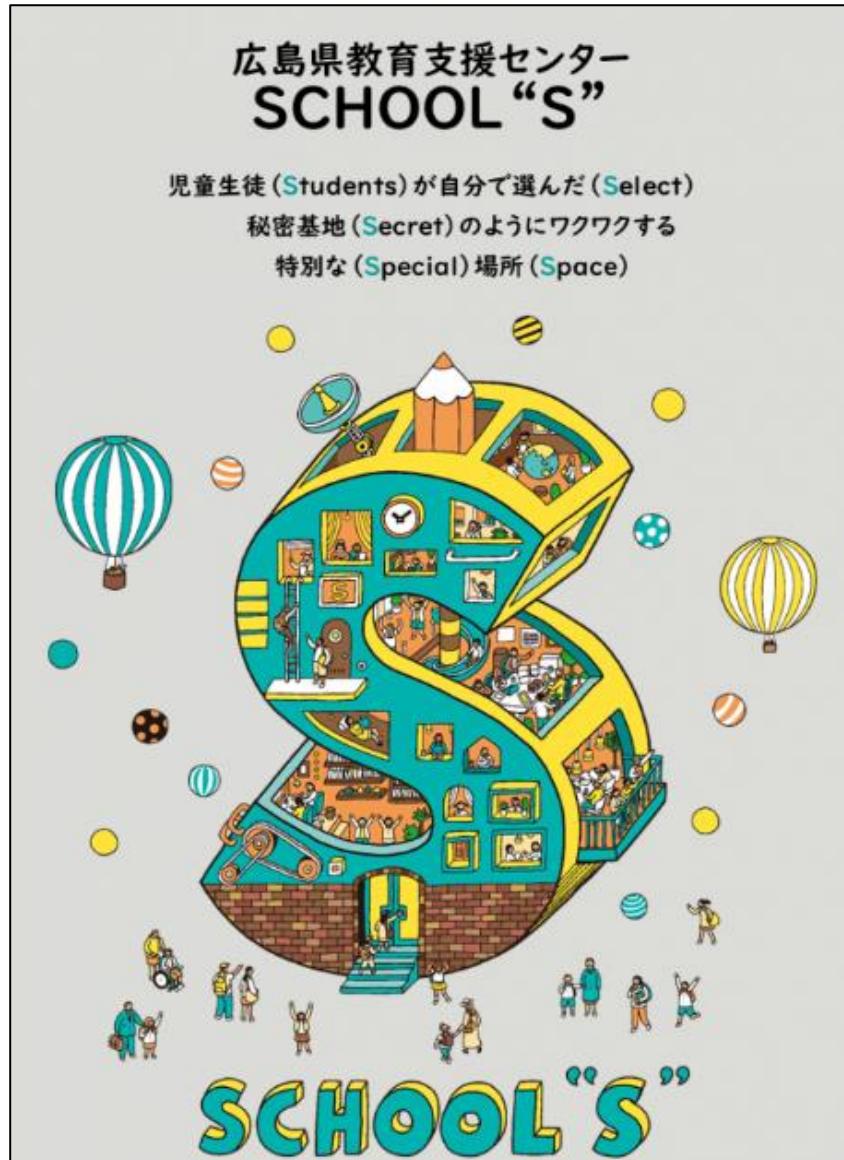


◎時間割を変更したい場合、相談できる。

◎利用する児童生徒の伴走者として担当者が決まっている。

令和元年度から、
県内不登校 S S
R 推進校 (11
校) が配置
令和6年度は42
校まで拡張

1 研究の背景と目的



令和3年度から、オンライン学びプログラム・クラブ活動
令和4年度から、スクールS(来室・オンライン)

月	オンライン学びプログラム	オンラインクラブ活動
12月	<p>コラボ企画 ③</p> <p>12月 3日 (金) カルビー広島工場に見学に行こう! (オンライン) 午前 10:45~11:30 午後 13:30~14:15</p> <p>12月 7日 (火) イラストクラブ: 13:30~14:15 講師: カラフルドットアート</p>	<p>12月 3日 (金) オンラインナックスクール (オンライン) 午前 10:45~11:30 午後 13:30~14:15</p> <p>12月 7日 (火) 写真部: 14:10~14:40 講師: 写真好きな皆さん! 1回で2つ以上の写真を紹介しよう 講師の先生と一緒に写真について語り合おう!</p>
	<p>「レッスン エクササイズ パートII ~心も体もリフレッシュ~」 体を動かす気持ちよさを体感し、しゅ~ぞー先生と心も体もリフレッシュ! ※用意するものは、ボール2つ(テニスボールくらいの大きさ・新聞紙でもOK) なわとび または ロープ (雨はないので室内参加でOK!)</p> <p>1月 14日 (金) 10:45~11:30, 13:30~14:15 ※2回とも内容は同じ</p> <p>SSR学びプログラム コラボ企画! 第4弾! With COCODEMO 江田島ラボ 「ゲームを作ろう! チャレンジ・プログラミング」</p> <p>1月 19日 (水) 10:45~11:30 13:30~14:15 ※午前・午後とも同じ内容です</p>	<p>1月 28日 (金) 生き物クラブ: 10:45~11:30 講師: 広島市森林公園こんちゅう館の先生がゲストです! 昆蟲について、語り合いましょう!</p> <p>1月 28日 (金) 企画部: 13:30~14:15 講師: 新しいクラブ活動を企画中! 意見を出し合い、進めてみよう♪</p>

1 研究の背景と目的

小・中学校の不登校児童生徒数が過去最多が懸念される中、校内教育支援センター・スペシャルサポートルーム（S S R）を活用し、S S Wとしてどのようなネットワークを構築・支援し、理論に基づいた実践（エビデンス・ベースト・プラクティス）ができるかを明らかにすることを目的とする。

2 研究の方法

・エンパワメントアプローチ

大塚（2022）がまとめているように、エンパワメントアプローチでは、当事者の問題を、対処能力の低さや不適応として捉えるのではなく、当事者の所有する資源、強さに焦点を当てる「強さ志向の視点」を強調する。すべての人、環境は強さ（ストレングス）や可能性を持っていると捉える。子どもの力、リソース、潜在性に焦点を当て、強化しようとアプローチする。

・エコロジカルアプローチ

西野（2020）がまとめているように、エコロジカルアプローチとは、問題は人と環境との不適応の交互作用にあると捉え、人と環境のインターフェイスに焦点を当て、介入することが特徴である。人は潜在的に備わっている力があり、環境との交互作用を通して成長・発達するという立場をとる。問題は原因一結果ではなく、原因が結果になり、結果が原因にもなる円環的作用である。

これらの理論から学び、筆者が実践してきた事例をそれに基づき振り返ることで、成果と課題を考察する。

3 倫理的配慮

発表内容については、プライバシー保護の観点から、個人・学校が特定されないように修正した。なお、所属する教育委員会には、学会発表の許可は得た。

4 研究の結果 事例 1 (Aさん)

Aさん

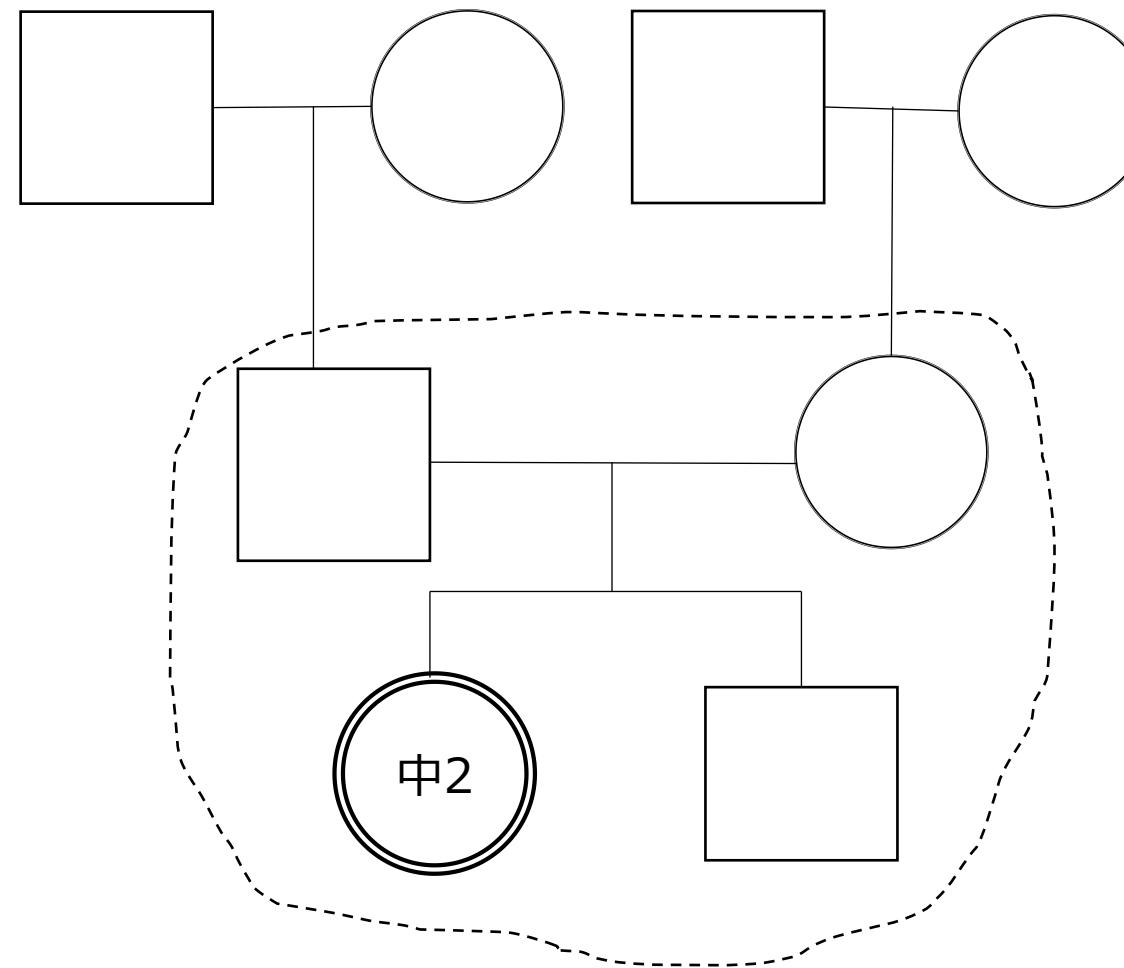
- ・Aさんは、中1途中から欠席が増え不登校になる。
- ・両親共働きで昼間不在、昼夜逆転生活に陥る。

校内ネットワーク

- ・学校では、週1回**不登校等生徒支援会議**（スクーリーニング会議にもなっている）を開催
- ・個別のサポート計画、F D P (Five Different Positions)（対人関係・メンタルヘルス・ストレス耐性・思考・環境）を作成
- ・アセスメント→プランニング→モニタリングのプロセスを取り入れ、短期目標・協議内容・誰が誰に・具体的な手立て（いつ・どこで）・役割分担に注力し、学校体制を構築

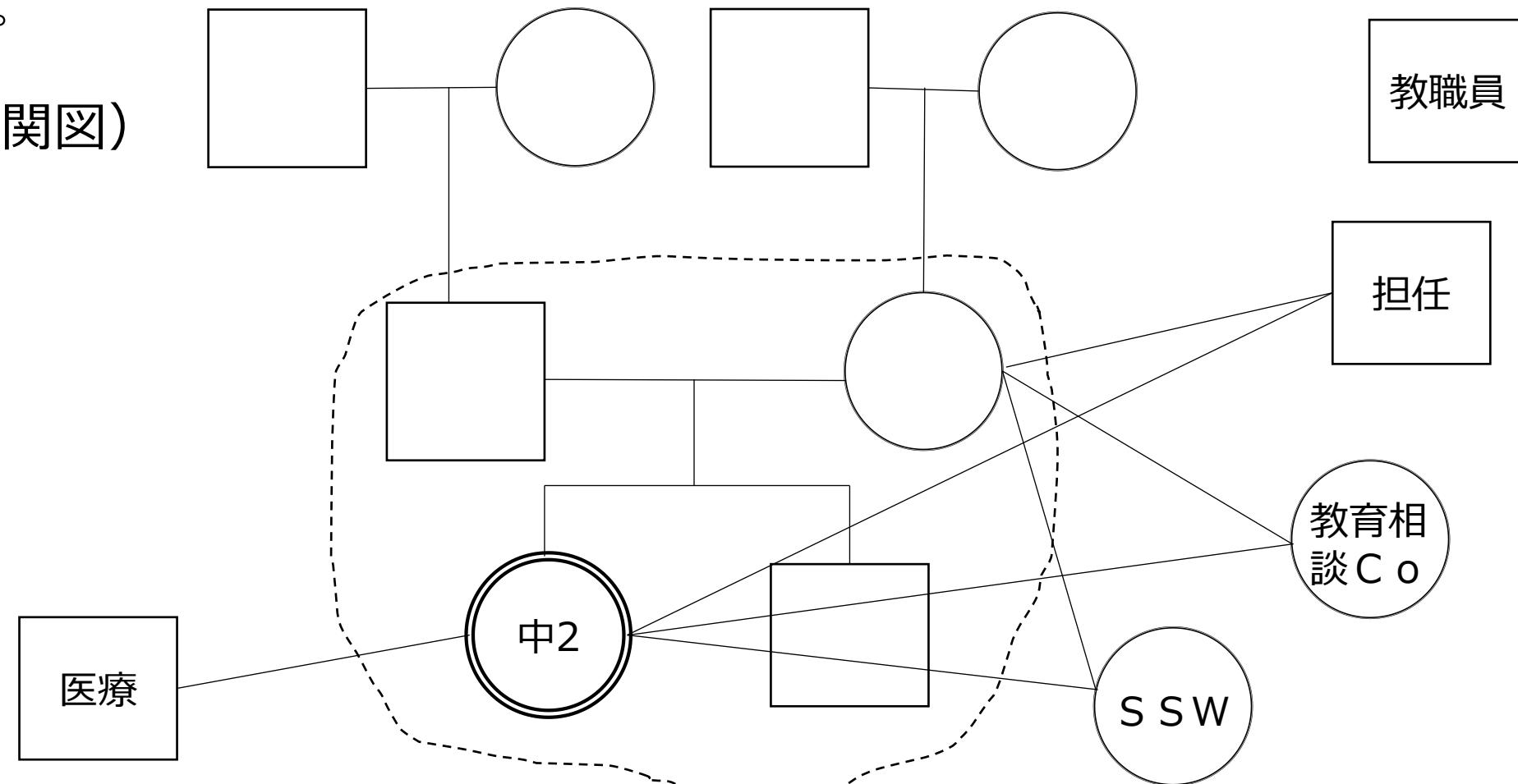
4 研究の結果 事例 1 (Aさん)

- ・ジェノグラム
(家族関係図)



4 研究の結果 事例 1 (Aさん)

- ・エコマップ
(人間相関図)



4 研究の結果 事例 1 (Aさん)

- ・家庭訪問 (教育相談C○とSSW)
- ・アートセラピーを取り入れて

SSRへ

- ・市美展への出品
- ・オンライン学びプログラム

学習への取組

- ・SSR交流会 (ハロウィン, クリスマス)

学校内におけるネットワークの構築

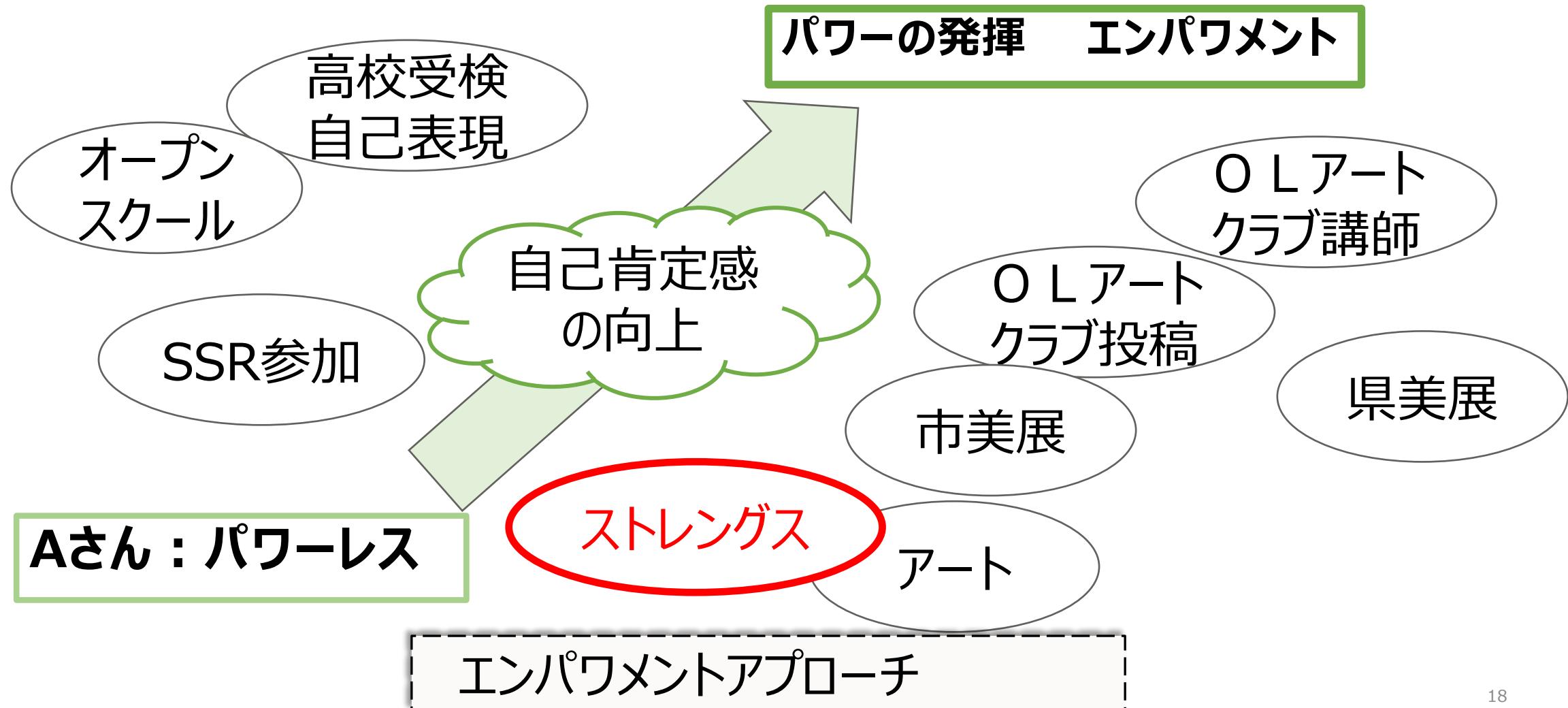
4 研究の結果 事例1 (Aさん)

- ・「S S R オンライン活動」
(グーグルクラスルーム) ストリームに
作品投稿 コメントもらう
- ・「アートクラブ」
アートの講師役に
- ・県美展入選
- ・高校受検の自己表現でアートのことを表現



公立高校合格

4 研究の結果 事例 1 (Aさん)



4 研究の結果 事例2 (Bさん)

Bさん

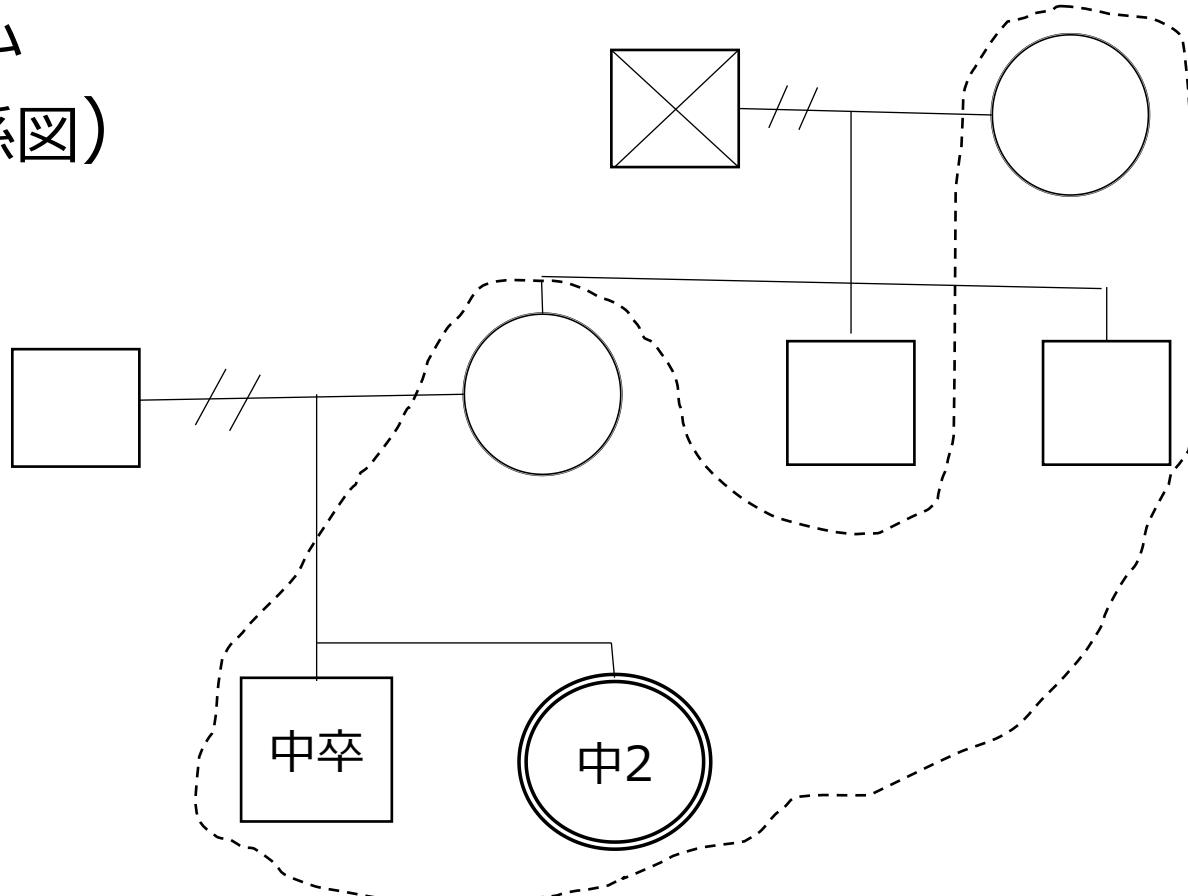
- Bさんは、小学校低学年から不登校で中1時全欠だった。
- 生活保護家庭で、母はメンタルヘルスに課題があった。本人は、母の服薬管理や、食事作りをし、ヤングケアラーの状況だった。

校内・校外ネットワーク

- 学校では、週1回不登校等生徒支援会議を開催 児童生徒理解・教育支援シート作成
- 関係機関ケース会議（市教委・市社会福祉担当課・担任・SSW等）では、関係機関と連携し、学校内外でのネットワーク構築
- 市社会福祉担当課家庭支援員（公民館等で学習支援）や市SSWと情報共有し、市生活支援センター（生活困窮世帯の学習支援・毎週土曜日）と連動させ、支援継続

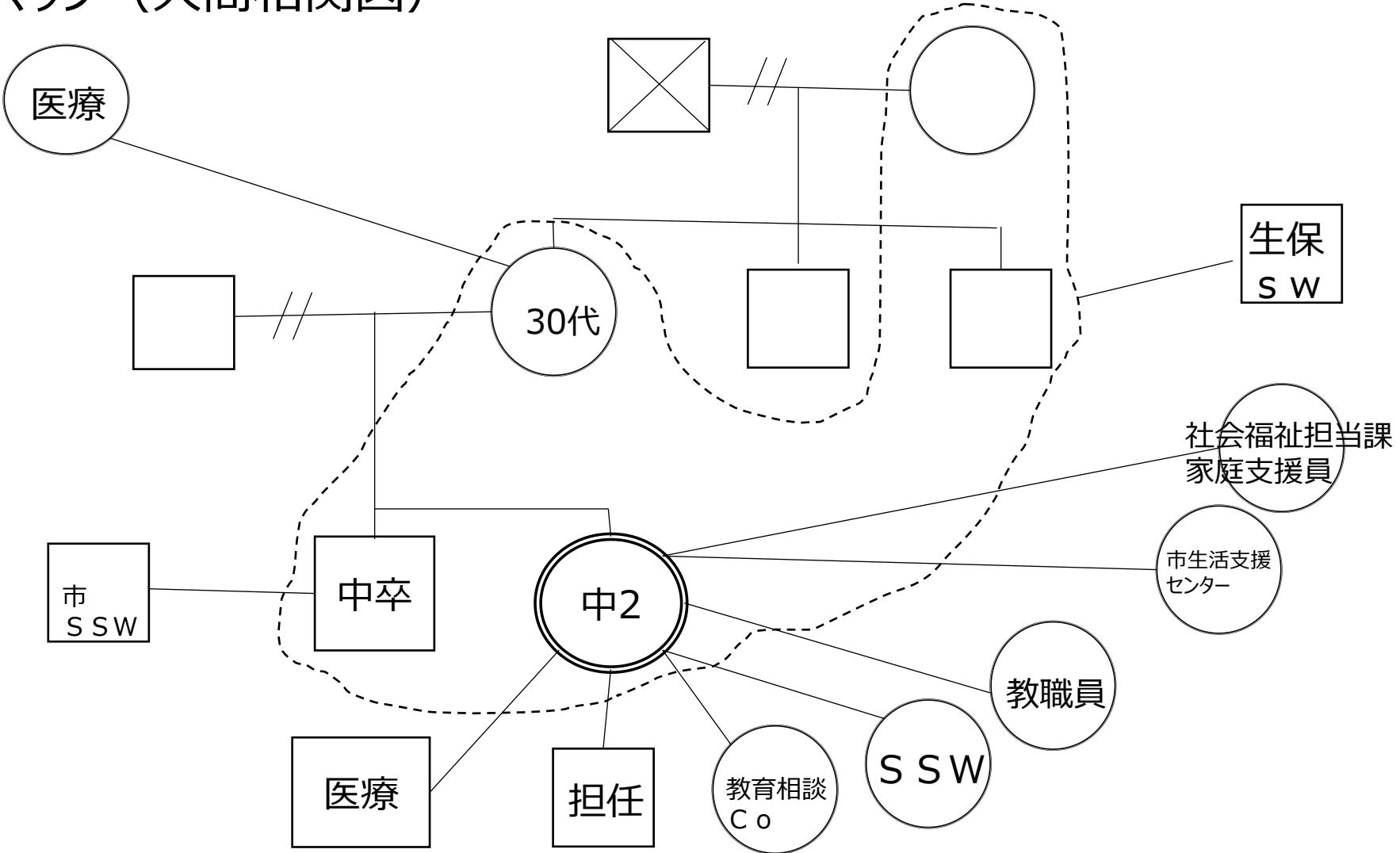
4 研究の結果 事例2 (Bさん)

- ジエノグラム
(家族関係図)



4 研究の結果 事例2 (Bさん)

- ## • エコマップ（人間相関図）



4 研究の結果 事例2 (Bさん)

- ・週1回 不登校等生徒支援会議（校長・教頭・主幹教諭・教育相談C.O.・学年主任・生徒指導主事・養教・S.C.・SSW等）→スクリーニング会議にも
- ・児童生徒理解・教育支援シート作成参画
- ・アセスメント→プランニング→モニタリングのプロセス
- ・関係機関ケース会議（市教委・市社会福祉担当課・担任・SSW等）

「学校内・外におけるネットワークの構築・連携」

4 研究の結果 事例2 (Bさん)

- ・市社会福祉担当課家庭支援員（公民館で学習支援）との情報共有
- ・市SSWとの情報共有
- ・市生活支援センターとの連動（毎週土曜日学習支援）
- ・支援目標① 「SSRに参加することができる」
- ・家庭訪問（担任・SSW）
- ・SSW週1家庭訪問し（昼過ぎ）話し相手になる

SSRでの学習参加

4 研究の結果 事例2 (Bさん)

- S S R での学習支援
- S S R 交流会 (S Cとの連携) 等
- 学校行事 (文化祭) への参加配慮
- 学校行事 (職場体験) への参加配慮

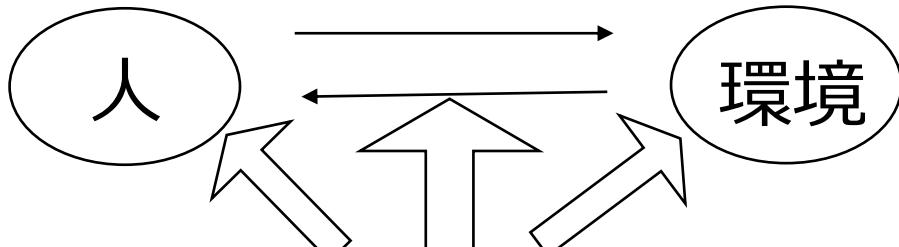
子どもの最善の
利益を求めて

「人生やり直したい」「高校に進学したい」

- 支援目標② 「高校進学することができる」

公立高校合格

4 研究の結果 事例2 (Bさん)



Bさんへの働きかけ

Bさんの適応能力を高めるために

S S Wが週1家庭訪問し話し相手になった。次第にBさんは、心の中を話すことができるようになった。

そして、年度途中から目標通り、S S Rでの学習に参加し始めた。

Bさんと環境の接点への働きかけ

交互作用を高めるため

心理的に関わり本人の気持ちを家族、学校、関係者に代弁した。学校体制を整えチームで取り組んだ。関係機関とのネットワークを構築し連動しながら、エコロジカルに関わった。

母の態度が激変し、本人の高校進学希望を後押しするようになった。その後、本人は公立高校に合格し進学した。

環境への働きかけ

環境の応答性を増すため

学習面は、家庭支援員や市生活支援センターと連携することにより、伸びていった。必要な物品購入においても、市生活保護ワーカーとの連携で購入に至ることができた。S S R利用者同士に関わることで学習が継続し、S S R交流会・文化祭・職場体験への参加につながった。職場体験では、Bさんにあった相手先を学校が開拓した。

本人は「人生やり直したい」「高校に進学したい」と言うようになった。

エコロジカルアプローチ

5 考察

事例にもあるように、不登校対応でSSRを利用したソーシャルワークは一定の成果を得ているといえる。ソーシャルワークの中で、問題場面だけに注目するのではなくストレングスに視点を当てアプローチすることで、エンパワーされ前進したと考える。

また、SSRを活用し学校内外でのネットワーク構築・連携を基盤とし、エコロジカルアプローチを取り入れ、人と環境のインターフェイスに関わることで、好循環が生まれ本人の意思決定により前進したと考える。

5 考察

理論に基づいた実戦（エビデンス・ベースト・プラクティス）が重視されている中、今後は、実践において研究を重ね、クライエントの状況に合わせてアプローチを判断することが大切になってくると考える。

さらに、実践の評価の目標や評価方法を検討することが課題である。

【参考文献】

- 大塚美和子・西野緑・峯本耕治 (2020) 「『チーム学校』を実現するスクールソーシャルワーク 理論と実践をつなぐメゾ・アプローチの展開」 明石書店 163-164.
- 大塚美和子 (2022) 「スクールソーシャルワーカーと教師のための校内支援実践マニュアル」 神戸学院大学出版会 25-26.
- 高良麻子・佐々木千里 (2022) 「ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために」 かもがわ出版 46-47.